

令和 5 年度 Digital Innovation City 協議会

第 1 回 DIC 協議会 総会 資料

2023/05/10

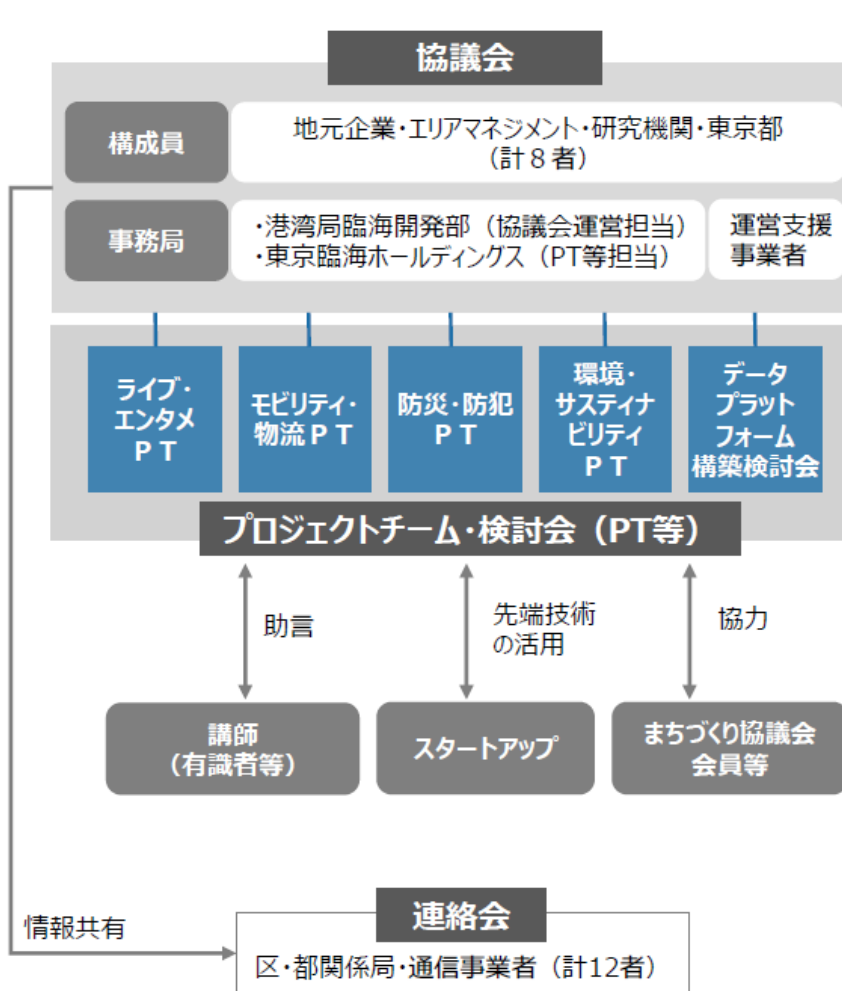
本日の議事

1. 令和5年度DIC協議会の進め方
2. 令和5年度PT・検討会が実施するイベント・実証
3. 今後の予定

1

令和5年度 DIC協議会の進め方

令和5年度 Digital Innovation City 協議会の体制



名称 (実施予定回数)	役割等
DIC協議会 (年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 実施事業： <ol style="list-style-type: none"> DICの方向性と実現 先端技術の実証またはイベントの企画 臨海副都心における5G通信網やデータプラットフォームなどの基盤整備推進 協議会及びDICに係る広報 その他、DIC推進に係る取組に関すること
プロジェクトチーム・データプラットフォーム検討会 (PT等) (各年6回程度)	<ul style="list-style-type: none"> テーマ：ライブ・エンタメ、モビリティ・物流、防災・防犯、環境・サステナビリティ、データプラットフォーム構築 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 各PT等のテーマに係る臨海副都心における課題と、デジタル等先端技術による解決事例の検討 (1)に係る先端技術の実証またはイベントの実施 (2)で実証等を実施した先端技術の実装に向けた検証 その他、DICの実現に向けた諸課題に対する取組に関すること
連絡会 (各年4回程度)	<ul style="list-style-type: none"> 協議会、PT等の活動内容を、地元区、都関係局、通信事業者等へ定期的に共有
講師等	<ul style="list-style-type: none"> 学識経験者等の有識者をPT等へ招へい (運營業務支援委託に含む)
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 東京都港湾局臨海開発部 (協議会運営担当) 東京臨海ホールディングス (PT等担当) 運営支援事業者 (都から委託)

令和5年度 Digital Innovation City 協議会のスケジュール

取組		令和5年（2023年）										令和6年（2024年）		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
協議会	総会		第1回				第2回				第3回			第4回
	連絡会		第1回				第2回				第3回			第4回
PT・検討会	会議			第1回		第2回		第3回			第4回		第5回	第6回
先端技術の実装に向けた取組	ライブ・エンタメ	イベント・実証プロジェクトの選定	承認	実証事業の準備と実施								成果報告/分析・考察	最終報告	
	モビリティ・物流													
	防犯・防災													
	環境・サステナビリティ													
	自動運転（公道、公園内）	公募		選定	実証事業の準備と実施						成果報告/分析・考察	最終報告		
	データプラットフォーム構築	仕様検討	公募	調査・検討						成果報告/分析・考察	最終報告			
DIC社会実装支援窓口	イベント・実証プロジェクトの検討や課題解決のフォロー、新規スタートアップ向けPR・受入調整													
5G普及促進事業	5G専門家派遣・通信キャリア等との調整・DX化補助金との連携													
DX推進補助金	募集開始	協議会・5G普及促進事業との連携による制度周知・支援												
新たな交流・共創に向けた広報	カンファレンス等でのPR	スタートアップ向けカンファレンス等での出展・PR								東京バイエSG国際発信イベントとの連携に向けた調整				
	HP/SNSでの周知	DIC協議会HPの刷新、SNSを活用した活動PRの推進（随時）												

「今後の進め方（案）」に関する意見聴取について（1／5）

- ▶ 令和4年度の第4回総会にて事務局から説明した「次年度以降のDICの進め方（案）」について、DIC協議会委員より意見を聴取した。結果を次頁に示す。

3. DICロードマップの更新

- これまで得られた知見等を踏まえて、DICロードマップをブラッシュアップしていきたい

DICロードマップ	追加・変更を行いたい点
<p>DICにおける2025年・2030年のまちの姿</p> <p>DICでは、先進技術を活用したライブ・エンタメイベントの開催を軸とし、それを支えるセキュリティ・防災・防犯・防災対策や、ライブ・エンタメの発展を促す2025年〜2030年までの課題を抽出して取り組む</p> <p>ライブ・エンタメを軸に</p> <p>2025年のまちの姿</p> <p>2030年のまちの姿</p> <p>また、エリアに「課題」が顕著な場、盛り上がりあり して、商賈を促進するスタートアップが盛り上がりあり</p> <p>(参考) 令和4年度 4回目に実施された資料P15 https://nifty-dic.jp/pdf/conference_04-02.pdf</p> <p>Copyright © 2023 Digital Innovation City協議会</p>	<p>DICのイベント主催へのスタンス</p> <ul style="list-style-type: none"> 「青海エリアでの象徴的なイベントを主催」にこだわらず、エリアの既存イベントの企画・運営をサポートするスタンスで活動を行う <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなスタートアップ等の交流機会となるイベント・カンファレンス等の共創・交流活動を実施していく 実証から実装に向けた課題解決の取組も本格的に実施していく <p>2030年の未来像</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来像はイメージしつつ、過去の検討に縛られずにアジャイル的に実装する観点から、2030年の臨海副都心はリアルマップではなくバースで描いていく <p>Copyright © 2023 Digital Innovation City協議会</p>

5. 2023年度以降のDIC取組（1/3）

- DICの当面の優先事項として、新たなデジタルサービスが生まれやすい環境を作っていく

デジタルサービスが生まれやすい「環境」のイメージ

- 【土台】臨海副都心における豊富なサービス需要**
(Xガイベント、インバウンド観光、MICE etc)
- 【DIC】交流・共創の場づくり**
・プロジェクト推進においてDICネットワークの支援 (例) フィールド提供、イベント活用、技術的助言、まちの事業者との連携etc
・エリアのデータプラットフォーム開発
・デジタルインフラの整備 etc
- 【DIC】サービスのエリア実装に向けた支援**
・実証予備のサポート
・イベントのプロモーション拡大
・運営主体候補の探索
・法規制対応 (ガバナンス)
・エリアデータ活用のサポート etc
- 【DIC】新規参入によるネットワーク拡大**
・スタートアップ向けカンファレンス等を通じ新たなプレイヤーの呼び込み
・動画・HP・SNSを通じた発信

デジタルサービス提供に向けたアライアンス
 企業、行政機関、スタートアップ、研究機関

スタートアップ、企業、大学

Copyright © 2023 Digital Innovation City協議会

5. 2023年度以降のDIC取組（2/3）

- 新たなデジタルサービスのエリア実装に向けて、4テーマのプロジェクトチームで取り組む

ライブ・エンタメ	サービスレイヤー	デジタル基盤構築	防災・防犯	環境・サステナビリティ
<p>エリア施設・イベントの企画・演出・運営等のスケールアップやサービス向上につながるユースケースを生み出していく</p> <p>ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022 (NEW SCALE)</p> <p>ART BAY TOKYO ARTIST FESTA 2022</p> <p>(参考) https://artbaytokyo.com/</p>	<p>移動・周遊につながるサービス実装に向けた接続とサービスモデルの構築を行う</p> <p>移動弱者向けサービス拡大に向けたインクルーシブなサービス環境の実現</p> <p>次世代モビリティのまち体験</p> <p>(参考) https://nifty-dic.com/en/2022/09/29/next-generation-mobility/</p>	<p>防災・防犯分野で既存の備有設備や対策オペレーションシステムとの連携を前提とした機能統合やユースケース実証を実施予定</p> <p>・あわせて、センシングデータの取込みやセンサーネットワークの搭載機能の基礎検討を実施していく</p> <p>・2024年度は、にぎわいに資する機能構築のため、東京お台場.netとの連携を検討</p> <p>都市OSの構築等</p> <p>(参考) 令和4年度第4回DICネットワーク推進会議資料「都市OSの構築等」2023年12月28日_P21</p>	<p>「公共交通機関が限られる」イベント時に発生する多くの帰宅困難者が発生する等課題に留意し、データ活用やサービス実装を促す災害対策力の向上を図る</p> <p>臨海副都心における防災対策のシナジー</p> <p>防災・防犯分野で既存の備有設備や対策オペレーションシステムとの連携を前提とした機能統合やユースケース実証を実施予定</p> <p>(参考) DICネットワーク推進会議資料「防災・防犯分野」2023年12月28日_P22</p>	<p>エリアにおいて環境に配慮した先端技術の活用や持続可能なまちづくりを進める</p> <p>SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS</p> <p>(参考) https://www.un.org/sdgs/sdgs-report/2022/sustainable-development-goals-report-2022.html</p>

Copyright © 2023 Digital Innovation City協議会

5. 2023年度以降のDIC取組（3/3）

- 毎年、データ連携と活用事例を増やししながらアジャイル的にデータプラットフォーム（エリアOS）の構築を目指す
- エリア事業者による先端技術の導入に向けたデジタルインフラやガバナンス面についてもサポートを行っていく

データプラットフォーム	デジタルインフラ	社会実装支援窓口
<p>平時・防災時の両面にて、エリア事業者に活用される機能構築を行っていく</p> <p>・2023年度は、防災分野で既存の備有設備や対策オペレーションシステムとの連携を前提とした機能統合やユースケース実証を実施予定</p> <p>・あわせて、センシングデータの取込みやセンサーネットワークの搭載機能の基礎検討を実施していく</p> <p>・2024年度は、にぎわいに資する機能構築のため、東京お台場.netとの連携を検討</p> <p>都市OSの構築等</p> <p>(参考) 令和4年度第4回DICネットワーク推進会議資料「都市OSの構築等」2023年12月28日_P21</p>	<p>5Gの普及促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨海副都心における5G通信網の普及及び活用促進を目的とし、まちの事業者等への支援 5G活用の先行事例紹介を順次実施 導入を希望する場合、通信事業者等の専門家を派遣 補助率1/2、限度額1.5倍、予算額2倍 <p>DX推進補助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨海副都心における5Gなど先端技術の導入や企業進出時のオフィス改修等の設備投資を支援 DICで実証された技術を周知し、補助を活用した導入を促進 <p>デジタルインフラ</p> <p>(参考) DICネットワーク推進会議資料「デジタルインフラ」2023年12月28日_P22</p>	<p>新たなデジタルサービスの導入にあたって、AIや先端技術を持つスタートアップ等との連携や共創をサポート</p> <p>DICネットワーク推進会議資料「スタートアップ支援」2023年12月28日_P23</p> <p>(参考) https://www-dic.jp/startup/</p>

ガバナンス

- デジタルサービス実証・実装に関する規制緩和や特例措置の検討
 - ・エリア広告知規制の緩和措置検討
- 実証結果を踏まえた八丁面の課題を交通管理者等と協議

Copyright © 2023 Digital Innovation City協議会

「今後の進め方（案）」に関する意見聴取について（2 / 5）

- DIC協議会委員からの主なご意見は以下～次頁の通り。（事務局にて一部加工して転載）

＜全般に係るご意見＞

- ✓ 現在、臨海副都心エリアの次世代のまちづくり、課題解決に対して、1 地域事業者として、東京都や他の地域事業者と連携・協力して、様々な取組・施策を打ち出せているのは非常に良い状況であり、今後も継続して協力・活動していきたい。
- ✓ 臨海副都心を取り巻く環境の変化を活かしつつ、臨海副都心エリア内で活躍している様々な事業者との連携をさらに深め、まちの魅力を高める取組を推進することを期待する。
- ✓ 協議会はどうしても決定事項の共有という形になりやすいため、DICとして目指すべきベイエリアのあり方や、DICの進め方等について、フランクに話し合える場があると良い。
- ✓ これまでのDICの会議等の場でも言及したことの繰り返しになるが、臨海副都心エリアでのDICの取り組みの世間への認知が十分でないのが現状。「2030年の将来像」に向けて認知度をより高めていくための取り組みも推進する必要がある。
- ✓ 「2030年の将来像」（臨海副都心のイメージやゴール）については、東京都における他のプロジェクトとの整合性や共通のビジョンを反映して欲しい。「DICが目指すもの」というよりは、まず、「東京都の目指すもの」のイメージ化が望ましい。

「今後の進め方（案）」に関する意見聴取について（3 / 5）

➤ 続き

＜ロードマップに係るご意見＞

- ✓ DICのような取組が2025年に向けて多数乱立し始めていることもあり、事業者としてのリソースが限られていることを考えると、臨海副都心エリア全体の街づくり、開発、実証、イベント等の様々な取り組みを、東京都部局、事業者の枠を超えて俯瞰で見て、スケジュールや効果の観点から施策の最適化・連携を検討し、効率的に進めていくことが求められる。局を跨いだ連携は難しいとしても、まずは、都庁内での実証実験や大型イベントなどのスケジュールやロードマップの俯瞰はした上で、効率的に進めたい。
- ✓ DICでの取組が点ではなく、効果の最大化や先々を見通した線になるように、臨海副都心エリアにおける主要なプロジェクト、イベント、実証などはスケジュールやロードマップにプロットした上で、それらとの連携を視野に入れて、DICの戦略・戦術を練るべき。
- ✓ テクノロジーの社会実装のためには、事業者主体のプロダクト・サービスの実証だけでは難しく、都市のインフラ整備との両輪での計画が必要不可欠である。これを踏まえると、事業者の実証スケジュールだけでなく、東京都の行う都市整備の計画についてもロードマップに含めるべき。
- ✓ 資料に「実証から実装に向けた課題解決の取組も本格的に実施していく」との記載があるが、具体的にどのような取組をいつ誰がどのように実施していくのかを明確にすべき。

「今後の進め方（案）」に関する意見聴取について（4 / 5）

➤ 続き

＜イベント・実証に係るご意見＞

- ✓ DICが設立されて3年目となる中で、今後積み重ねていく実証事業は、これまで以上に以下の点をしっかり見極めていくことが重要となる。
 - 真にバイエリアの価値向上や魅力向上に資する内容か
 - 他のエリアにおいてすでに実証されている内容ではなく、バイエリアならではの、バイエリアに則した実証・まちづくりであるか
 - ビジネスモデル（投資回収・費用対効果・事業継続）が描けているか

「今後の進め方（案）」に関する意見聴取について（5 / 5）

➤ 以上のご意見を踏まえ、今後、事務局として以下に取り組んでいく。

- ① 総会やPT・検討会に加えて、個々のテーマや議題について少人数でディスカッションできる場の設定。
- ② 東京都における上位方針や他プロジェクト等との整合性などを踏まえた、DICの「2030年の将来像」のアップデート案／叩き台の作成。
- ③ 臨海副都心エリアにおける主要なプロジェクト・イベント・実証や、東京都の行う都市整備の計画などを盛り込んだ「年間スケジュール」及び「ロードマップ」の作成。
- ④ DICやDICの取組に対する認知度向上のための広報戦略の策定。
- ⑤ エリアでの“実装”に向けた今年度“実証”の伴走支援。
- ⑥ 各PT・検討会における新たな施策の検討、叩き台の作成。

2

令和5年度
PT・検討会が実施する
イベント・実証

デジタルツイン・VR・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの実証・開発

テーマ
ライブ・エンタメ
臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨海部の立地的特性を活かしたエンタメ施設が減少しつつある中で、先端的なテクノロジーを活用した新たなエンタメコンテンツを生み出し、根付かせ、集積させることが必要 2. デジタルやバーチャル技術等を活用した臨海副都心エリアへの新たな誘導施策を展開することが必要
2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none"> 1. 最先端の「バーチャル&リアル融合型エンタメ」として、臨海エリアの核となり、更なるエンタメの集積を誘発 2. 臨海部のデジタルツイン上でモータースポーツ体験を提供することで、フォーミュラ開催地としての世界的な認知を加速するとともに、国内外から臨海部へ人が訪れる入口に成長
企画概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「デジタルツイン・VR・プロジェクションマッピング・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの開発・実証」 ■ 企画概要案 以下3つのコンテンツを企画 ・デジタルエンタメの「開発実証」[シティ・サーキットTokyoBAY] ・EV(電動)カート「リアル vs. バーチャルレース」プロジェクト ・大型半球体VR装置を活用した「没入型VR公道レース」

活用する先端技術	
<ol style="list-style-type: none"> 1. デジタルツイン（バーチャルでの臨海副都心の再現等） 2. 大型半球体VR装置（デジタルツインの没入型体験デバイス） 3. 最先端EVカート（遠隔制御、位置情報リアルタイム伝送等） 4. インタラクティブ・プロジェクションマッピング（リアルvs.バーチャルレース） 	
企画参加者・役割	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画・全体統括・コンテンツ開発：(株)トムス ■ 技術開発・運用：WONDER VISION TECHNO LABORATORY(株) ■ 協力：森ビル(株)、(株)乃村工藝社、パナソニック(株)、ほか 	
3か年計画	
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ α版の開発と実証実験 ■ アンケート調査を実施し、課題点や改善点の抽出
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ β版の開発と実証実験 ■ 正式版開発及び実装・実運営準備
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 正式版の実装・実運営、国内外への更なる情報発信 ■ 臨海部の周辺施設・他事業者との連携強化
想定KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加者満足度（アンケート） ■ デジタル集客施策における体験者数 	

デジタルツイン・VR・EVカート等を活用したバーチャル&リアル融合型エンタメの実証・開発

2025年に目指す姿

- 「バーチャル&リアル融合型エンタメ」による更なるエンタメ集積の誘発や、臨海地区の世界的な認知度向上
- 障害を持つ児童や高齢者も含めた、誰もが参画できる臨海部発のwell-beingなコンテンツへの成長

R5実証イメージ

【活用技術】 デジタルツイン、大型半球体VR装置、最先端EVカート、インタラクティブ・プロジェクションマッピング等
【実施場所】 シティ・サーキットTokyoBAY・オンライン



■ EV(電動)カート「リアル vs. バーチャルレース」プロジェクト



■ 大型半球体VR装置を活用した「没入型VR公道レース」



■ 臨海部デジタルツインモータースポーツ体験

TIF2023デジタル防災避難訓練

（※1）

テーマ
防犯・防災
臨海副都心の課題
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨海副都心防災基本計画や街づくりガイドラインに則り、開発当初より目指してきた「安全・安心なまち」の実現 2. 「もしも」の災害発生の際に臨海副都心エリアの来場者の安否確認や避難位置情報などを把握するテストケースが必要
2025年に目指す姿
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨海副都心エリアで発生した災害時に来場者のスムーズな避難誘導や適切な情報発信を最新テクノロジーで実現 2. 集客施設が多く、人気イベントの開催なども多い臨海副都心エリアでの安心安全な防災・避難体制の準備
企画概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「TIF2023デジタル避難訓練」 ■ 企画概要案 2023年8月に開催される世界最大規模のアイドルイベント『TIF2023』において、最新テクノロジーを活用した避難訓練を実施。来場者の行動履歴の把握や問題点などの抽出を行い、今後の災害対策につながるシステムづくりを目指す

活用する先端技術	
<ol style="list-style-type: none"> 1. PWA（※2）：WEBサイトをスマホアプリのように使える仕組みを活用したスマートフォンだけで完結するデジタル避難手法 2. NFT（非代替性トークン）を利用した顧客体験の創造や情報管理 3. GPSを使用した顧客行動データの取得とオペレーション手法 	
企画参加者・役割	
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画・運営：株式会社フジテレビジョン ■ 技術部門担当：株式会社ソニー・ミュージックソリューションズ (デジタル避難システム技術の開発・提供) 	
3か年計画	
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大規模イベントでの避難訓練・課題の抽出 ■ PWAやNFTを活用した顧客体験・管理手法の検討
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1年目の避難行動を踏まえた誘導手法の効率化 ■ 臨海副都心エリアの他企業・サービスとの連携
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 避難者数増加に対応できるシステムの構築 ■ 臨海副都心エリア全体に対象エリア拡大を検討
想定KPI	
<ul style="list-style-type: none"> ■ イベント避難実績数 ■ ユーザー満足度（アンケート） 	

（※1） TIF : TOKYO IDOL FESTIVAL

（※2） PWA : Progressive Web Appsの略

TIF2023デジタル防災避難訓練

(※1)

2025年に目指す姿

■ 臨海副都心エリアの集客施設や大型イベント開催時において、来場者が安心して災害時の行動指針とすべきデジタル避難サービスの実現とエリア内の様々な企業・サービスとの連携が取れている街づくり

R5実証イメージ

【活用技術】 PWA (※2) 技術 (WEBサイトをネイティブアプリのように使える仕組み) を活用した避難者行動マップ、NFTを活用したエンタメ施策など
【実施場所】 フジテレビ湾岸スタジオエリア

想定プラン: PWA活用

開催する複数ステージからの避難を想定

湾岸スタジオ SKY STAGE 湾岸スタジオ屋外 SMILE GARDEN

ZappDiversity HOT STAGE

避難行動

NFTはアイドル活用など
オリジナルアイテムあるものを想定

デジタル避難訓練
避難完了

Step1 TIFコミからの避難訓練開始の通知

地震発生

Step2 避難ルートの確認・行動開始

※チェックポイントで
防災に関するクイズや
スタンプラリー形式など
課題を解決していく形も可能

GOAL

Step3 ゴール到着でQR等でのSBT付与

参加者の避難状況は
管理者が確認可能

※仕組は現時点の想定内容となります。実施内容に応じて変更となる可能性があります。

■ デジタル防災避難訓練実施概要

スマホで避難訓練

TIFの会場から安全に避難せよ

■ 避難訓練想定エリア



■ イベント会場 (イメージ)

(※1) TIF : TOKYO IDOL FESTIVAL

(※2) PWA : Progressive Web Appsの略

音のAR体験『oto rea』による謎解き型・街の魅力再発見プログラムの開発と実証

テーマ	活用する先端技術						
環境・サステナビリティ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界初のARcloudオーサリングツール『Auris』 2. 高感度センサーと立体音響装置を搭載したウェアラブルデバイスなど 						
臨海副都心の課題	企画参加者・役割						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 海・水辺を有する都心唯一のエリアとして、開発による環境への負荷を最小限とするため、省エネルギー、自然エネルギーの利用、都市緑化等の「環境保全型都市づくり」を進めてきた一方で、当エリアの魅力や価値の認知が不十分 2. 当エリアを訪れる障がい者や訪日外国人、小・中学生など幅広い来訪者が共に楽しめるコンテンツが少数 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全体設計・推進管理/体験コンテンツ制作/実証イベント運営/効果検証：株式会社乃村工藝社 ■ 基盤システム設計・開発：株式会社GATARI ■ 協力企業：ハレガケ、SUSHI TOP、ピクシーダストテクノロジーズ 						
2025年に目指す姿	3か年計画						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 当エリアを訪れる人々が、「音のAR」による全く新しい体験を通じて街の取組等を学ぶことで当エリアの魅力・価値の認知が拡大 2. “自然環境に手を加えずに空間に情報を付加できる”という特性を生かした様々なコンテンツにより、障がい者や訪日外国人、小・中学生など幅広い来訪者が街の魅力を楽しむことが可能 	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">1年目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基盤システムの開発 ■ 実証テスト= サービス需要の計測 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">2年目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ サービス事業の拡張= 体験コンテンツの追加 ■ 新規サービス実証 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">3年目</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォーム基盤の確立 </td> </tr> </table>	1年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基盤システムの開発 ■ 実証テスト= サービス需要の計測 	2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ サービス事業の拡張= 体験コンテンツの追加 ■ 新規サービス実証 	3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォーム基盤の確立
1年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基盤システムの開発 ■ 実証テスト= サービス需要の計測 						
2年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ サービス事業の拡張= 体験コンテンツの追加 ■ 新規サービス実証 						
3年目	<ul style="list-style-type: none"> ■ プラットフォーム基盤の確立 						
企画概要	想定KPI						
<ul style="list-style-type: none"> ■ 企画名称案 「音のAR技術を活用した新体験システムの開発」 ■ 企画概要案 サイバー空間上に音源を設置し、フィジカル空間と重ねることで、全く新しい音響体験を提供。「環境先進都市：臨海副都心」をテーマに、草木や花、建物など様々なオブジェクトが、耳から語り掛けてくる体験を提供。音を頼りに街を巡り、臨海エリアの取組やSDGsの理解を深め、楽しく学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 体験者満足度（アンケート） ■ 関係事業者評価（アンケート） 						

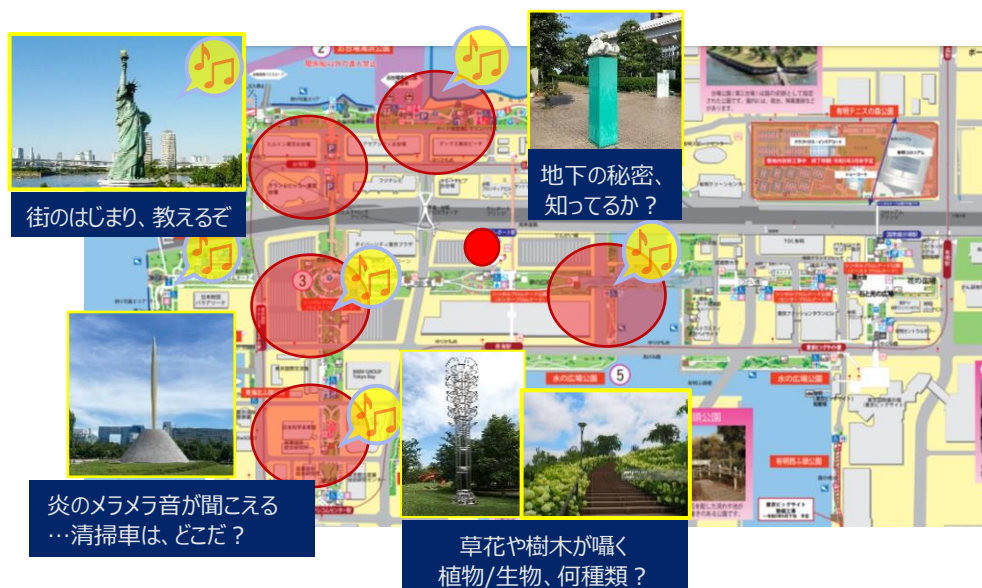
音のAR体験『oto rea』による謎解き型・街の魅力再発見プログラムの開発と実証

2025年に目指す姿

- 「音のAR」による全く新しい体験を通じてリピーターを創出するとともに、“自然環境に手を加えずに空間に情報を付加できる”様々なコンテンツにより、障害者や訪日外国人、小・中学生など幅広い来訪者が街の魅力を楽しみ学び続けている

R5実証イメージ

- 【活用技術】 世界初のARCloudオーサリングツール「Auris」、高感度センサー、立体音響等
- 【実施場所】 臨海副都心エリアのパブリック空間



- 臨海副都心エリアの様々な空間に”配置された音”を体験



- タブレット端末
「高精度位置情報認識」



- 眼鏡型オーディオデバイス
「高精度センサー＋立体音響技術」

モビリティ・物流PTにおける継続実証プロジェクトについて

- ▶ 令和4年度の第4回総会にて事務局から説明した通り、モビリティ・物流PTにおける以下の2つの実証プロジェクトについては、令和5年度も継続して実施する。

AIスーツケースによるインクルーシブな移動の実証 (日本科学未来館)

2025年を目指す姿

- デジタルテクノロジーの実装により、障害者や移動に不自由にある方でも、気軽に来訪して、各拠点間を自由に移動し、だれでもまちの移動、回遊を楽しむことができる、インクルーシブな街。

R5実証イメージ

【活用技術】 自律型ナビゲーションロボット「AIスーツケース」(センサー/衛星測位/AIによる自律ナビ・走行技術)
 【実施場所】 臨海副都心・青海南エリア

PMO等による先進観光サービスの実証 (Le DESIGN、LOOVIC)

2025年を目指す姿

- 健康な方から移動弱者までのすべての人が一緒に楽しめるスマートモビリティサービスで、インクルーシブ観光のモデルエリアになる
- 自動運転とVoice ARを融合した世界初の観光モビリティサービスが主要エリアに実装され、お台場の先進性を国内外にPRできる
- リアル空間の街歩きを楽しむ魅力が発見できる「景色上へのVoice ARサービス」が実装されており、街歩きを楽しみながら回遊できる。

R5実証イメージ

【活用技術】 1. 「PARTNER MOBILITY ONE (Le DESIGN)」と「PiiMo (パイモックペ)」を組み合わせた先進観光モビリティ群
 2. GPS-RTK、LIDAR等のセンサフュージョンによる高度自律移動技術
 3. 自動運転とARガイド (Voice ARサービス) を融合した先進観光モビリティサービス
 【実施場所】 1. シンボルプラザード (東京レトロート〜ガンダム立像周辺) もしくはエストプラザード (東京国際交流館前)
 2. 雨天時は日本科学未来館内で実施

3

今後の予定

直近の会議の予定

■ 総会

- 第2回DIC協議会総会 : 9月予定

■ PT・検討会

- ライブ・エンタメPT : 5月下旬～6月上旬予定
- モビリティ・物流PT : 5月下旬
- 防災・防犯PT : 5月下旬～6月上旬予定
- 環境・サステナビリティPT : 5月下旬
- データPF構築検討会 : 6月上旬予定

※ 上記はいずれも第1回会合。以降、2カ月に1回の頻度で開催予定。
(2023年7月、9月、11月、2024年1月、3月)

その他の事業の予定

■ 自動運転プロジェクト (<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/04/27/23.html>)

- 4月27日に募集を開始
- 公道および都有地（公園）でプロジェクト実施予定

■ 5G普及促進事業

- 5G通信を活用したユースケースを取りまとめ、9月頃に勉強会を開催予定
- 今後、まちの事業者を支援する専門家派遣事業を実施予定

■ DX推進補助金 (<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2023/04/04/01.html>)

- 4月4日に交付申請の受付を開始済

お問い合わせ先

DIC協議会事務局

担当者 : 新間・斎藤・洪
メールアドレス : dic@jp.kpmg.com